

## 仲よし学級3・4組 生活単元学習指導略案

教科等	生活単元学習	単元名	めでたし めでたし その先は	本時	全15時間扱いの9時間目
学級	仲よし学級3・4組	授業者		教室等	1階 仲よし学級 4組教室

### <本時の指導>

<b>&lt;本時のねらい&gt;</b> 自分の思いや考えを相手に伝えるように話したり、相手の思いや考えを受け止めて聞いたりすることができる。	
<p>主な学習活動【4つの視点】 主な発問:T 予想される児童の反応:C</p> <p>1. 前時の学習を振り返り、めあてや学習の流れを知る。 【発見】 T:前回までの学習で「うさぎとかめ」と「ももたろう」の物語を知りました。今回は、「ももたろう」のその先を考えてみましょう。</p> <p>めでたし めでたしの その先を 話し合おう！</p> <p>T: 今日、この流れで 学習を進めていきます。</p> <p>1. グループでの話し合い① 2. 話し合いの振り返り 3. グループの話し合い② 4. 物語の「その先」を決める</p>	<p>○研究主題にせまる6つの手立て □…指導上の留意点 ☆…評価 ※UD</p> <p>□各グループがどの物語を選んだのか、物語を象徴するイラストを提示しながら全体で確認をする。※視覚化 □単元計画や学習の流れを黒板に掲示することで、活動に見通しをもって取り組めるようにする。※構造化</p> <p>○話題設定の工夫 児童が親しみを感じることができる物語(昔話)の中から題材を選ぶことで、自分の考えを表現しやすくする。</p>
<p>2. グループでの話し合い①をする。【対話】 T: 1回目の話し合いをします。今回の話し合いのめあては「他の人の考えを知る」です。そのために、大事なことは何ですか。 C:友達の考えを、反応しながら聞く。 C:みんなの考えを聞く。</p> <p>3. 話し合っている内容を、全体で共有する。【対話】 話し合い①を振り返る。 T: 話し合い①はどうでしたか。よかったところ、困ったところを出し合いましょう。みんなの考えをまとめるための話し合いにするために、必要なことは何でしょうか。 C:友達の考えに、質問をして詳しく知ることです。 C:みんなの考えのいいところを合わせることです。</p> <p>4. グループでの話し合い②をし、展開の概要をグループで改めて考える。【対話】 T: 2回目の話し合いをします。めあては、「物語のその先を決める」です。「決める」とは、どういうことですか。 C:みんなの考えをひとつにまとめるということです。 T:そのために、大事なことは何ですか。 C:友達の考えを詳しく知ることです。</p>	<p>□個人で考える時間を設け、自分の意見をもって話し合いに参加できるようにする。</p> <p>○話し合いの話型の提示 具体的な場面から、よりよいやり取りの姿を提示し、思いの言語化や円滑なコミュニケーションにつなげられるようにする。※共有化</p> <p>□展開の概要を、登場人物、場所など整理しながら考えていけるよう、ワークシートを用意する。</p> <p>○意図的にグルーピングされた小集団での交流活動の設定 異学年間での交流活動が促進できるように児童の日々の学習の実態や相性を考えたグループ編成を行う。</p> <p>☆自分の思いや考えを相手に伝えるように話したり、相手の思いや考えを受け止めて聞いたりしている。 (観察・発言)</p>
<p>5. 本時の振り返りをする。 T:今日の話し合いはどうでしたか。 C:みんなの考えを知ることができた。</p>	

### 【板書計画】



### 【研究主題にせまる6つの手立てとの関連】

#### (1) 「自分の考えを言葉で表現する」ための手立て

##### 話題設定の工夫

児童の実態として、自分の好むことや興味・関心のあることであれば、自ら意見を述べるなど積極的に取り組む姿が見られる。その一方で、組外の慣れない環境では消極的な態度を示す児童が多い。また、両組に共通してストーリー性のある教材を好む傾向がある。そこで、「自分たちで物語の展開を考える」という話題を提示することで、児童同士の話し合いが自然に活発化するような単元を設定した。

単元の導入時には、児童が内容を理解しやすいよう「めでたし めでたし」で終わる物語を五つ紹介し、全員で内容を確認した後、個人で音読に取り組む。これにより、題材に親しみをもてるようにする。さらに、三人グループで話し合い、五つの物語の中から「めでたし めでたし」の続きを考えたい物語を自分たちで選ばせることで、題材に対して特別感をもたせ、児童の興味や関心をさらに高められると考える。

##### 話し合いの話型の提示

みんなの考えをまとめるための手立てとして、「友達の考えを受け止めよう」、「全員が話せるようにしよう」、「くわしく知りたいことを質問しよう」の話型カードを掲示する。さらに1回目と2回目の話し合いの間で、教員が実際に話型を用いた会話の手本を示すことで、その後の児童同士の話し合いに活用させる。

#### (2) 「学び合う」ための手立て

##### 意図的にグルーピングされた小集団での交流活動の設定

本単元は、普段は別々の教室で学習する二組が合同で学習することで、日常的な関わりを越えた交流の機会を生み出すことをねらいとしている。慣れない場での活動に不安を抱く児童が多いという実態を踏まえると、異学年との交流はコミュニケーション能力を育む上で効果的であると考えられる。

また、話し合いや学び合いを活性化させるために3人一組のグループを基本とし、児童の日々の学習の実態や相性を考慮してグループ編成する。4・5年生が在籍する4組と2・3年生が在籍する3組を均等に組み合わせることで、多様な考えに気付くことができるだけでなく、上級生にはリーダーシップを発揮させ、下級生には上級生の言葉や行動から学びつつ活動に参加する力を身に付けさせたい。これにより、児童は互いに学び合いながら自己の表現力や対話力を高めることができると考える。